石櫻新聞

第1面 高総体開会式
第2面 県高総体の結果
第3面 文化部の活躍
第4面 芸術鑑賞教室

平成12年7月18日発行
第108号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱

高総体開会式

雨雲を吹き飛ばす勢いの応援合戦

第五十二回岩手県高校総合体育大会の開会式が行われた。今年は盛岡市の県営運動公園が会場となった。

六月一日、待ちに待った高総体が行われました。天気は晴れ。最高の日よりで行われた高総体は、今まで一生懸命に練習をガンバって地区予選を勝ち抜いた選手の皆さんを歓迎していたように思われました。

当日は、たくさんの高校生が運動公園に集まりました。まだ梅雨に入ったまま明けてもいないのに、選手や応援の人々の熱気で、半袖でも暑いくらいでした。

そんな暑さの中で僕たちは応援しました。ほとばしる汗、競技の応援ではなく、開会式だというのに、応援団は燃えていました。まるで真夏の太陽。太陽が二つあるようでした。

その応援もさることながら、僕の目を惹き付けたのは、妖精たちでした。……行って良かったと思いました。そして、選手入場。部活で鍛えられた鋼鉄の筋肉が太陽に照らされて光り輝きました。

選手の皆さんは緊張を忘れたように、しっかりとした行進を見せてくれました。

本校の皆さんが応援歌練習をガンバっている時に、選手の皆さんは暑いなか外で行進練習をしていました。なかなか足並みや手の振りが合わなくて苦労していました。その厳しい練習のおかげで、当日は、他の高校に負けないくらいの、すばらしい行進ができたと思います。

応援も、練習の成果がものすごく出ていて、すばらしいものだったと思います。

今までの練習の成果を十二分に発揮した、悔いの無い試合が期待されました。

堂々たる岩手高校選手団の入場行進

気迫のこもった本校応援団

応援団幹部として

六月一日、高校総体総合開会式、天気も悪いわけではなく、むしろ良かった方だろう。私にとっては最後の総合開会式であり、去年は雨で中止になったため、実に丸二年ぶりの総合開会式だった。今年は数年ぶりに盛岡で開会式が開かれ予想以上の多数の学校が参加したようだった。今年は一年生のみ開会式に出たわけだが、よく声が出ていた。今までの中では一番よかっただろう。周りの他校の応援に負けていなかった。エール、応援歌、三三七拍子、みんなよく声が出ていた。そして、開会式中長時間みんなご苦労だった。自分はいくらいとしか言えないが、自分にできることは先頭に立って声を出すことくらいで、それが自分のすべき役割だと思っていた。岩手高校応援団として。

応援団長
3年G組
佐々木浩二

石桜祭のテーマ決定！

“Get Over 20”

～今世紀最後の男たちの宴～

石桜祭のテーマが実行委員会によって決定された。テーマは「Get Over 20 今世紀最後の男たちの宴」である。テーマ決定にたずさわったのは、生徒会執行部の会長田中裕也君（3F）、副会長赤坂直哉君（3A）、菊池崇寛（3A）、書記熊谷晋君（3A）、吉田英幸君（3A）、文化委員会委員長橋場悠也（3E）、副委員長齊藤憲君（3E）の計七名である。日時は九月二日、三日で二日間に渡って行われる。今年度は二十世紀最後の石桜祭である。一人一人が今まで以上に盛り上がるようなイベントにしたいと思う。

春季校内体育大会

白熱!! クラス対抗戦

五月の十六日と十七日に、春季校内体育大会が行われた。その日は天候にも恵まれていた。結果は次の通りである。

バレーボール優勝
三年　教員チーム
二年　C組Aチーム
一年　B組Aチーム

柔道優勝
三年　C組
二年　B組
一年　E組

バスケットボール優勝
三年　C組Aチーム
二年　F組Aチーム
一年　B組Bチーム

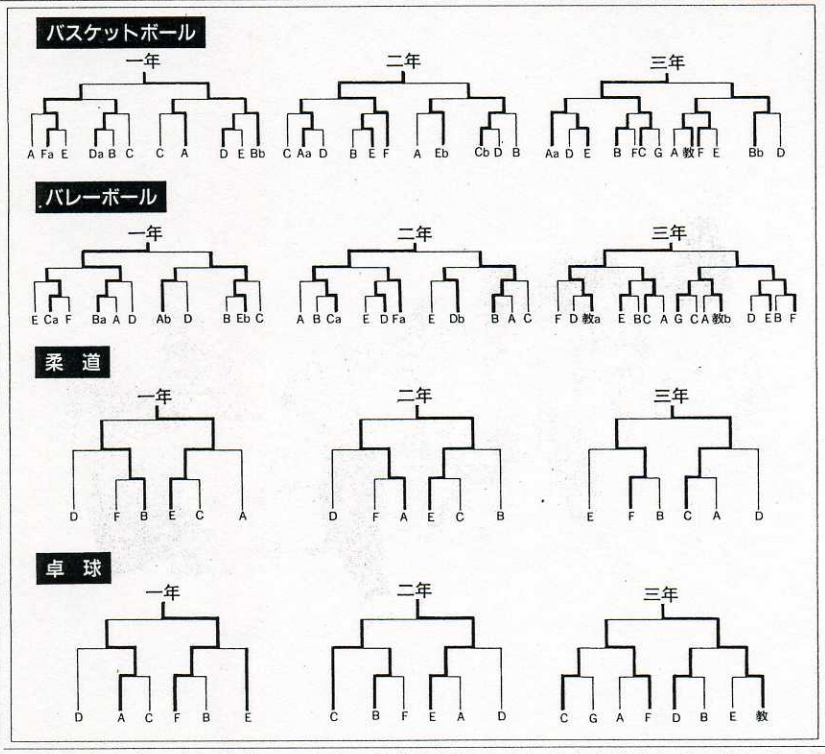
サッカー優勝
三年　A組
二年　D組
一年　C組

卓球優勝
三年　教員チーム
二年　E組
一年　F組

リレー優勝
三年　C組
二年　E組
一年　F組

総合優勝
三年　C組（45点）
二年　C組（39点）
一年　B組（38点）

表彰式は五月二十二日、本校体育館で行われた。



視点

石割櫻

▼シドニーオリンピックが始まる九月まであと数か月となりました。マスコミでもこの話題がたびたび出てきています。今回のオリンピックは、この二十世紀の最後のものであり、史上最大の大会になるだろうともいわれています。なぜならば、参加国も競技の種目も多いからです。もう既に、体操や陸上競技や水泳は、出場が決まった選手も大勢でてきています。また、他の種目も、予選が行われています。▼六月十七日からは女子バレーボールの予選が行われました。この予選でオリンピックへ出場できるかどうかが最終的に決まることになっていました。昨年秋に行われたワールドカップで日本は六位に終わりました。ワールドカップで上位三位以内に入っていればオリンピックに出場できたのですが、そうはいきませんでした。そして、今回の予選となったのです。日本も、この予選の試合で全力を出して、出場権を獲得してほしかったのですが……残念でした。▼さてここで日本の女子バレーの歴史を振り返ってみます。一九六四年の東京オリンピックでは変化球サーブや回転レシーブなど独自の技を駆使し、金メダルを得て、世界から『東洋の魔女』といわれるほど強かったそうです。しかし、最近、弱体化しているのでしょうか。今世紀の最後で節目となるミレニアムオリンピックには是非出場してほしかったと思います。こうなったら新世紀に、その活躍を期待して待つことしましょう。

【3E岩渕敬志】

第五十二回 県高総体の結果

剣道部
六月一～三日
岩手県営武道館
団体戦
予選リーグ
岩手　4―1　花巻東
岩手　5―0　浄法寺
決勝トーナメント
岩手　2―3　盛岡三
岩手　2―3　不来方
ベスト8
個人戦
山本寿　○―×　金野（花泉）
山本寿　×―○　齋藤（福岡）
一戸　○―×　平山（宮商）
一戸　○―×　三上（宮工）
一戸　○―×　倉舘（福岡）
一戸　×―○　鳥居（山田）
ベスト8、東北大会出場

山岳部
六月一日～四日
焼石岳
男子団体
3A　赤坂直哉
〃　日山聖也
〃　金子崇
2C　吉田周作
第四位

柔道部
六月一～四日
二戸市総合スポーツセンター
団体戦
予戦リーグ
岩手　5―0　釜石北
岩手　5―0　遠野緑峰
決勝トーナメント
岩手　1―3　久慈
個人戦
○60kg級　2年　和田　二回戦　敗退
○66kg級　3年　及川　二回戦　敗退
2年　金田一　ベスト16
○73kg級　3年　山口　一回戦　敗退
2年　森合　ベスト16
○81kg級　3年　金子　ベスト8
2年　矢幅　二回戦　敗退
○90kg級　3年　齋藤　ベスト8
1年　小原　ベスト16

ソフトテニス部
六月一～四日
北上市和賀川グリーンパークテニスコート
個人戦
三船（3B）・丸一（3F）組
第三位
中村（3A）・藤原（3F）組
ベスト8
東北大会、岐阜インターハイ出場
高橋（3E）・菅沼（3D）組
東北大会出場
団体戦
岩手　0―2　一関商工
ベスト8

体操部
五月二十六～二十八日
県営体育館
決勝　第六位

高橋君（3B）の吊輪

卓球部
六月二日
陸前高田市営体育館
男子ダブルス　一回戦
熊谷圭徳　1―2　今井
児玉大樹　岩渕
（一関一）
男子シングルス　二回戦
熊谷圭徳　0―2　菅原（水沢工）

テニス部
六月二～四日
太田スポーツセンター
団体
岩手　3―0　不来方
岩手　2―0　盛岡北
岩手　2―0　盛岡四
優勝
シングルス
中川順　6―0　元島　大（盛四）
中川　6―0　印南孝平

中川　6―1　土屋　裕（不来方）
中川　6―1　稲田拓也（盛南）
中川　6―1　水野　剛（盛北）
中川　8―0　北田顕広（盛南）
優勝
東北大会出場
菅原陵臣　6―3　細川雅透（盛四）
菅原　6―3　新井大輔（岩手）
菅原　6―0　細川雅俊（盛南）
菅原　6―0　中村崇之（盛南）
菅原　4―6　北田顕広（盛南）
第三位
ダブルス
中川順　6―0　吉田宗平
菅原陵臣　伊藤　聡（大迫）
中川　6―0　小山徹也
菅原　元島　大（盛四）
中川　6―0　村上卓也
菅原　菅間　惇（盛南）
中川　6―1　細川雅俊
菅原　中村崇之（盛南）

バレーボール部
六月一、二日
大船渡市民体育館
岩手　0―2　釜南
ハンドボール部
六月一、二日
花巻市総合体育館、花巻北高
岩手　19―33　盛岡中央
陸上競技部
五月二十六～二十八日
運動公園
四×百mR
川村、藤村、徳田、村井
準決勝　進出

その他の大会

映画部
○第四十七回NHK杯全国高校放送コンテスト県大会（第二十三回県高総文祭放送部門）
六月三日
NHK盛岡放送局・上田公民館
創作ドラマ部門
2C　吉田裕隆監督作品
「岩手高校映画部～8分間の戦い～」
第一位
全国大会（NHK杯）出場

将棋部
○第十三回全国高校将棋竜王戦岩手県選手権
六月四日
日本将棋連盟岩手中央支部
2F　高橋春樹
優勝　竜王
3A　川村　綾　第三位

水泳部
○平成十二年度市民記録会
六月十八日
屋内プール
二百m　個人メドレー
2A　堀欠　三位
1A　鈴木　四位

ソフトテニス部
○第四十三回東北高校選手権大会
六月十六～十八日
岩木山総合公園テニスコート
一回戦
高橋　1―4　下田
菅沼　齋藤（青森・八工大一）
中村　2―4　安藤
藤原　内田（宮城・仙台育英）
三船　4―0　柴田
丸一　菅原（宮城・東北）
二回戦
三船　4―1　金森
丸一　高木（福島・小高工）
三回戦
三船　2―4　畠山
丸一　藤原（秋田・合川）
三船・丸一　ベスト16

テニス部
○県小中学生選手権大会
五月二十七日～二十八日
1R
田村晋　1―6　佐々木貫（乙部中）

東北選手権大会の報告

テニス部
高総体で団体戦、個人戦シングルス、ダブルスを完全制覇し、三年連続優勝の栄誉を勝ち取ったテニス部は、六月二二日から福島県で行われた東北選手権大会に出場した。福島市営庭球場を会場に二五日まで熱戦が繰り広げられた。

東北大会三連覇を期して望んだ本校は団体戦は準優勝であったものの、中川の王戦岩手県選手権シングルス優勝、中川・菅原ペアのダブルス優勝と岐阜で開催されるインターハイでの活躍が期待される成績を残すことができた。

六月二二～二五日
福島県福島市営庭球場
団体戦
一回戦
岩手3―0福島南（福島）
二回戦
岩手2―0仙台第二（宮城）
準決勝
岩手2―1磐城（福島）
決勝戦
岩手1―2原町（福島）
準優勝（中川・菅原・佐々木・武藤・橋）
男子シングルス
一回戦
菅原6―3佐藤（川俣）
二回戦
中川6―0佐々木（聖光学院）
菅原3―6星山（仙台第二）
三回戦
中川6―0坂部（山形東）
準決勝
中川8―0丹野（仙台育）
決勝戦
中川8―1星山（仙台第二）
優勝　中川　順
菅原陵臣　ベスト16
男子ダブルス
一回戦
中川・菅原6―4長岐・小野（東奥義塾）
二回戦
中川・菅原6―3堀内・宗像（原町）
準決勝
中川・菅原8―3渡辺・早園（東陵）
決勝
優勝　中川
菅原　陵臣
中川・菅原8―4星山・佐藤（仙台第二）

テニス部団体メンバー
左から佐々木・中川・菅原・武藤・橋君

東北大会を振り返って

3E　佐々木　惇

東北総体を振り返って、団体三連覇できなかったことはとてもくやしいものであった。いままで県、東北の優勝旗はすべて持ち帰っていたが、今回の大会で一本少なくなってしまった。しかしある意味、私達部員の普段の生活態度、行い、練習態度を見直すいい機会だと思う。練習をいくらたくさんやっても優勝を目前に逃してしまうというのはやはりそれらに関わってくるのだと思う。

個人では、中川順の二冠、菅原陵臣のダブルス優勝で、団体の悔しさをばねにとてもがんばったと思う。見ている人たちにとってもとても楽しませてもらえる試合だったと思う。

八月にあるインターハイでは、全国選抜大会、東北総体でくやしい思いをした分、いままでできなかったベスト8を目指してがんばりたいと思う。

テニス部顧問
本多　好郎

団体三連覇を逃して思うことは、努力だけでは届かないものもあるんだということの再認識である。やっても無駄だという意味ではなく、競技力だけにとどまらず、気力を含めた精神力、そして運までをも味方につけなければ成し遂げられないほどの目標だったのだということ。「勝負は時の運」とよく言われるが、運を呼び込むためには、日頃の練習以外に挨拶や服装を始めとして普段の生活態度が重要である。これはどんな種目においても、常勝チームの鉄則である。

ソフトテニス部
ソフトテニスの東北選手権大会は六月一六日から一八日まで青森県岩木町岩木山総合公園テニスコートで開催された。本校からは三船・丸一ペア、中村・藤原ペア、菅沼・高橋ペアの三組が個人戦に出場した。

三船・丸一ペアと中村・藤原ペアは八月に開催される岐阜インターハイへの出場が決まっている。健闘を期待する。

六月一六～一八日
青森県岩木町
岩木山総合公園テニスコート
個人戦
一回戦
高橋・菅沼　1―4　下田・齋藤
青森　八工大一
中村・藤原　2―4　安藤・内田
宮城　仙台育英
三船・丸一　4―0　柴田・菅原
宮城　東北
二回戦
三船・丸一　4―1　金森・高木
福島　小高工
三回戦
三船・丸一　2―4　畠山・藤原
秋田　合川
三船・丸一　ベスト16

大会を振り返って

3E　高橋　誠司

二、三、四日の高総体では、惜しくもインターハイには行けなかった。でも、東北大会に、出場できた。東北大会では、良い成績は、おさめれなかったけど、最後の高総体、いろいろな事を通して、良い思い出ができた。今まで、いろんな人達おせわになった事に感謝して、これからも、頑張りたいと思います。

ソフトテニス部
左から菅沼・高橋君

インターハイの決意

三船・丸一
中村・藤原

左から丸一（3F）・三船（3E）君

左から中村（3A）・藤原（3F）君

剣道部
六月二四日
角田市総合体育館
一回戦
一戸×―○メコ生出（宮城　柴田）

東北大会を振り返って
剣道部顧問
久保英三郎

東北大会に本校からは三組出場をしましたが、三船、丸一組がベスト16が最高でした。監督が不在の中3チームがキャプテンを中心にまとまり頑張ってくれました。さらに協力して頂いた川村（國）先生には感謝の気持ちでいっぱいであります。さらに、東北大会での惜敗をよく反省し、岐阜インターハイでは、残り少ない本校での練習や遠征を重ね、ベスト8入賞を目指しがんばりたいと思う。

僕たち三年生4名は、岐阜インターハイに出場します。今年のインターハイ出場は、岩手高校最初の二ペアと言うことで、選手も気合いを入れ、又、3年間教えて下さった先生や、後輩たちのためにも全力で頑張っていきたいと思います。

東北大会の結果報告とインターハイへの抱負
ソフトテニス部顧問
東　幸男

六月二十四日から六月二十五日に、宮城県角田市総合体育館で第四十六回東北高等学校剣道選手権が行われました。この大会に先立って、二十三日、県代表選手としての技術向上を目的に、剣道専門部が花巻総合体育館で強化合宿を行い、競技力と志気を高揚し万全の態勢で挑んだ大会でありましたが、個人戦は、八選手中、一勝以上した選手が一名、団体戦は、2チーム共に予選リーグで敗退し他県のレベルの高さを実感させられました。本校の一戸陽介君は個人戦に出場し、初戦、宮城県代表の生出選手（柴田高校）と対戦しました。

前半は善戦していましたが、後半つばぜりあいから体勢がくずれた瞬間、引き面を取られ、一本を失い、それを挽回せんと、面を取りに飛び込むが決まらず、逆につばぜりあいから引き小手を取られ惜しくも一回戦で敗退しました。

最後に、来年こそインターハイ出場を期待し一、二年生諸君の一層の奮起と日々の精進を願い、報告とします。

東北大会に出場して

3A　一戸　陽介

六月二四日、二五日に宮城県角田市で東北大会が開催されました。私は、岩手県の代表として、初めての東北大会という大舞台に出ることができました。試合は第一試合目で、とても緊張してしまい自分自身の力を発揮できず残念な結果に終わりましたが、とても良い経験をしました。一緒に練習してくれた剣道部員、そして先生方に感謝したいと思います。

将棋部 団体優勝!! 新竜王に高橋君

新しく竜王となった高橋春樹君（２Ｆ）

五月に県高校将棋大会が行われた。この大会は個人と団体の重複エントリーができないため、選手をどちらに出場させるかがカギとなる。本校は、米澤佑太四段をはじめ、高橋春樹三段や川村綾三段が着実に力を伸ばしており、「団体戦勝負」で迷いはなかった。

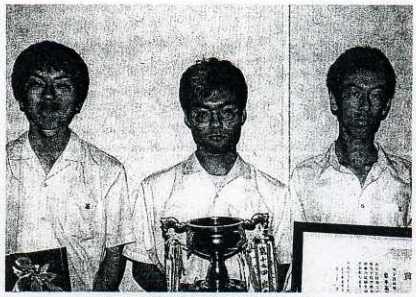
強敵は昨年の覇者、水沢高校。しかも、そのときのメンバーが全員残っており、我々に勝利があるとすれば、団体選手の並べ順で優位になることであった。しかし、フタを開けて見ればその並べ順は裏目。水沢有利の布陣をどう攻略するかが最大のポイントとなった。

本校は予選からすべて3対0ストレートで勝ち進み、決勝へ。相手は予想通りの水沢。もう、優劣はどうでもいい。「全部勝つ！」の意気込みで対戦した。結果、三選手は練習の成果をすべて発揮し、3対0のストレート勝ち。三年ぶり二度目の団体優勝となった。

翌六月に行われた高校竜王戦では、本校にとってまた苦戦となった。昨年の竜王である米澤佑太がシードされたが、なんと予選から勝ち上がってきた高橋春樹と初戦で対局。本校最悪の同士討ちは、高橋が前竜王の米澤に勝ち、他校勢がよろこぶ波乱となった。

しかし、その日の高橋は、勢いがあった。米澤の連勝を39でストップさせただけあって準決勝、決勝も制し、高校竜王のタイトルを獲得した。また、三位の川村綾も大物食いを連発し、援護射撃が光った。

両全国大会でも健闘を願いたい。


全国高総文祭に出場するメンバー
左から米澤君（３Ｂ）、高橋君（２Ｆ）、川村君（３Ａ）

ＮＨＫ全国大会 出場決定 映画部

映画部は夏期休業期間中、ＮＨＫ杯全国大会準決勝と静岡県で行われる全国高文祭への出場が決定している。

「いや～ん」岩手高校は男子校ですー

映画部は、六月三日に上田公民館及び、ＮＨＫ盛岡放送局で行われた第四十七回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト岩手県大会において、「岩手高校映画部～８分間の戦い～」という作品を発表した。今回制作された映画は、「周りの目を気にせず撮りたいものを撮る」という映画製作の基本的な姿勢をテーマに、「幼稚なギャグ映画こそ、味わいがある」と豪語する部長と、「世の中を風刺した作品を作りたい」という部員たちとのコミカルな戦いを描いたコメディー作品である。

大会当日、審査員の方々にカメラワークやキャラクター設定、合理的なストーリー展開が高く評価され、創作ドラマ部門において、黒北、盛工、三高を下し優勝した。なお、その結果、七月二十日に東京で行われるＮＨＫ杯の全国大会の出場が決定し、そのために新たにＢＧＭやＳＥを付け加えて、更に力を入れて制作している。

また、八月七日に静岡県富士市で行われる第二十四回全国高等学校総合文化祭への出場に向けて準備を進めている。

「これからも、みんなに楽しんでもらえるような映画を作り続けていきたいので応援よろしくお願いします。」と部長の佐々木秀成君は語っている。

緑の募金 73、690円の善意

生活委員会が中心になって今年も「緑の募金」の街頭募金に協力した。

五月二十三日火曜日、生活委員会は緑の羽街頭募金に行って来ました。今ではこの活動は、生活委員にとって重要な仕事の一つとなっています。生徒のほとんどは、街頭募金と聞いて特別な響きを感じる人も多いと思いますが実際にやってみると考えたそれとは全く遠く、とにかく道路に立ち続け行き交う人たちに募金を呼びかけると行った地道な活動の繰り返しです。しかし、街頭募金はつらいことばかりではありません。僕が担当した場所は川徳の前でした。その日は運悪く休日にあたってしまい、十五分間に一人という割合で募金をしてもらうという辛い一日でした。しかし、その人達が声をかけたりしてくれて今回の街頭募金はただの募金集めではなく、地域の人たちとの数少ないふれあいの場にもなったと思います。この日の活動によって、73、690円もの募金を集めることができました。生活委員の皆さんご苦労様でした。

「募金をおねがいします」左から久慈君（２Ｅ）、日戸君（２Ｅ）

ＪＲフレッシュマナー キャンペーンに参加

―乗車マナーに気をつけよう―

五月二十五日にＪＲの方々がお見えになられ、ＪＲフレッシュマナーの参加授与式が行われた。このマナーアップ運動は、列車通学のマナーの向上を目指すために学校全体で参加した。

私達の学校は、電車で通学する生徒も多く乗車のマナーについては力を入れていかなければいけない。

今回、私達はこのようなキャンペーンに参加し、電車の乗車だけでなく、学校外や普段の生活の中でも生かせるようにしていければよいと思っている。この目標を全校で取り組み、より良い生活をおくれるようにし、地域が明るく気持ちの良いものとなればよいと思っている。

ＪＲの方（左）と、生徒会長の田中君

非行防止講話 自転車には二重ロック!!

最近、少年の犯罪が急増している。盛岡東署生活安全課の方を本校にお招きし、非行防止講話をして頂いた。

六月十九日に、非行防止講話が行われた。この講話に来てくださったのは、盛岡東警察署生活安全課少年係長の児玉均さんで、児玉さんの課の仕事と最近の少年事件や、万引き、自転車、喫煙の話を聞かせて頂きました。まず最初に児玉さんの課の仕事の内容を教えていただいて、次に最近の少年事件ということで、富士見橋の事件や十五歳の少年が放火した事件などがその後どうなったかを聞かせていただいた。万引きの行為は一度やってしまうとやめられなくなってしまって次第に窃盗や強盗にまで発展していってしまい、ついには罪の意識がなくなってしまうのだと教えられました。

講話をしていただいた盛岡東警察署の児玉さん

自転車の窃盗はカギのかかっていないもの、それと、カギがかかっていても石などでたたくとこわれてしまうようなものが盗まれやすいそうです。一三九一台のうち七三九台がカギが掛かっていて盗まれたそうなので、二重ロックをしたほうがいいと言うことでした。また、防犯登録をしている自転車は七割が持ち主のところへ戻ってくるそうです。

そして、最近高校生で増えているのはアンパンとガスパンで、アンパンというのはシンナーを袋に入れて吸うらしいのですが、繰り返すと脳細胞が破壊されて意識がもろうとするらしく、常習者はやめられなくなってしまうのだそうです。ガスパンは、シンナーより手に入れやすいライターのガスを吸うもので、窒息死する者が出ているとのことです。

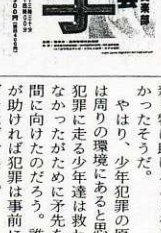
今回の話を聞き、やはり規範意識の欠如が非行や犯罪につながっていくのだと思いました。

“復活”定期演奏会

本校吹奏楽部の第19回定期演奏会が四年振りに開催される。多くの来場者を期待したい。

7月20日(木) 海の日　都南文化会館 キャラホール

開　場　13時30分
開　演　14時
前売り　300円（当日　400円）



壊れる十七歳 ―第一回

最近ニュース等で、十七歳の少年による犯罪が報じられているのが目立つ。僕と同じ歳の少年の犯行ということで、ショックが大きかった。バスジャックや大金を恐喝したりという犯行があったが、それだけではなく殺害されるという事件もあった。日本で、少年犯罪が増えているのは、誰でもわかっていることだが、なぜ増えているのかがよくわからない。

今、少年法の改正についていろいろ言われているが、そのことについてもしっかりみんなが考えるべきだと思う。未成年者は、法で保護されているため、犯罪を犯しても大丈夫という考えがあるのではないかと考えています。バスジャック犯の少年が取り調べでどんなことを言ったか、ニュースで放送していましたが、反省していないように思えました。僕は少年法を厳しくすべきだ思いました。

未成年の喫煙は常習者が多く、規範意識がうすれているそうです。飲酒している未成年もいるそうで、法律にきられているのに隠れてそのような行為に及ぶ者が多いというのが実状だそうです。

そして、最近高校生で増えているのはアンパンとガスパンで、アンパンというのはシンナーを袋に入れて吸うらしいのですが、繰り返すと脳細胞が破壊されて意識がもろうとするらしく、常習者はやめられなくなってしまうのだそうです。ガスパンは、シンナーより手に入れやすいライターのガスを吸うもので、窒息死する者が出ているとのことです。

今回の話を聞き、やはり規範意識の欠如が非行や犯罪につながっていくのだと思いました。

ニュースを見ると、少年事件が日常的に報道されることが少なくない。テレビで「少年事件についてどう思うか」ということを同年代の人達にアンケートしたのを取り上げていた中で、実に半分以上の少年達が人を殺したいと思ったことがあると回答していたのには驚いた。主婦殺害犯の少年の動機も非常に腹立たしかった。「人を殺す経験をしてみたかった。」というのである。何でそのような考え方ができるのか、全く理解できない。あと一番疑問なのは、なぜ「十七歳」が凶悪犯罪に走るのかだ。何か意味でもあるのだろうか。

しかし、少年が犯罪に走るのは本人だけが悪いわけではないと思う。もちろん本人は一番悪いが、本人をとりまく周りの人たちの責任もあると思う。岡山バスジャック事件の犯人の少年は、中学時代ひどい「いじめ」を受けていたそうだ。周りは誰も助けようとしなかったらしいし、先生も両親も特に助けることをしなかったそうだ。

やはり、少年犯罪の原因は周りの環境にあると思う。犯罪に走る少年達は救われなかったがために矛先を世間に向けたのだろう。誰かが助ければ犯罪は事前に防げたはずである。

〈つゞく〉

クラブ紹介

第14回

物理部

毎年、石櫻祭ではさまざまな実験で楽しませてくれる岩高物理部ですが、全国的にも岩高の知名度を上げてくれています。今年も全国大会の代表に決まり、活動は衰えることを知りません。今回はその物理部を紹介します。

岩高といえば―物理部

これから物理部の紹介を始めたいと思います。本校物理部と言えば、全国でも数々の賞を受賞、実績を上げていることで「岩高といえば物理部」とも言われていますが、早速部員を紹介したいと思います。部員は全部で16名、顧問の佐々木修一先生、部長の大島君を中心に1年生6名、2年生2名、3年生8名で月曜、水曜、木曜の週3回活動しています。現在の活動は、黒板の上を垂直に走る車の試作をしており、すでに完成しているのでこれからどのようにしていくか検討中なのだそうです。他にも、七月二十九日から八月一日の間東京で行われる文部省「青少年のための科学の祭典全国大会」に代表で出場することが決まっており、七月一日からそれに向けて発表の訓練、トレーニングを行っていくのだそうです。そして九月二日、三日の石桜祭ではまた新しい出し物を検討中だそうなので、今から楽しみに待つことにしようではありませんか。これからの物理部の抱負は工学院大学研究論文を七月十日までに完成できるように部員一丸となって頑張っていくとのことです。顧問の佐々木修一先生も、「そろそろ皆をアッと言わせるのを作るので乞うご期待」と語っていたので、これからの物理部の活動にいっそう期待がもてそうです。

石桜祭では新しい出し物に期待して下さい

佐々木修一先生（顧問）

部・員・名・簿

部長	大嶋　泰史	3F	四戸　泰孝	2F
副部長	伊藤　貴仁	3B	小野寺　弘	2E
副部長	三浦　徹	3F	高橋　拓也	1B
副部長	森岡　隼祐	3G	千葉　健士	1B
	会田紳一郎	3A	藤原　和弘	1D
	畠山　洋樹	3A	松村　欣幸	1D
	斎藤　史昭	3D	谷地　要	1D
	西舘賢太郎	3F	藤澤　嘉規	1E

巧みな話芸を堪能

七月四日、本校体育館にて芸術鑑賞教室が行われた。今年の芸術鑑賞は「落語」「落語」に触れるという機会はなかったので、逆に新鮮に感じられたのではないだろうか。演目は次の通りである。まず初めに、春風亭小柳枝師匠による寄席入門、これは簡単に説明すると、演題の紹介や出演者の自己紹介などを言う物語で言えば前書きのようなものである。次に林家二楽師匠による色物、つまり芸なのだが、ここで行われた芸というものは、紙切りというものだ。これは紙を使い立体の紙切りなど、非常に洗練された修行を積まないとできないような神技的なものであった。次に、再び寄席入門を初めにしていただいた春風亭小柳枝師匠による落語、ここでは師匠の巧みな話術が光り、まさに真打ちの本随という感じであった。次は、翁家和楽、小楽師匠による色物、ここでは太神楽曲芸という、時流を越えて継承される江戸前太神楽曲芸を演じて戴いた。この芸も又非常に素晴らしい物であった。最後に、三遊亭円丈師匠による新作落語、ここではそれまでの古い枠組みを越えて現代性を兼ね備えた落語を巧みな話術がここでも光った。

今回、芸術鑑賞はそれまで県民会館に移動して行っていたが、初めて本校体育館に落語家の方をお迎えして行われた。今後もこのような方向で芸術鑑賞を行って欲しいものだ。

傘の芸に挑戦

おなじみの火の玉（プラズマ）実験

円大師匠、大熱演

教育実習生 奮闘記

後列左から　川口、菊池、吉田、東根、斉藤先生
前列左から　熊谷、阿辺、菅野先生

▼岩高生に思うこと

大阪体育大学　菅野　敦

岩手高校を卒業して3年3ヶ月、教育実習生として戻ってくると、岩手高校生を客観的に見られるようになっていた。少しは大人になったのかもしれない。岩手高校生は「かっこいい」これは僕の率直な感想である。確かにカッコつけたい時期であるが、でもかっこいいって何？と思う。何かに向かって真剣に取り組むことや自分をアピールすること、人のために何かをして上げることなどではないかと思う。岩手高校生には社会に通じるかっこいい大人になってもらいたい。

▼教育実習に当たって

岩手大学　熊谷明希

大学で教育について学んでいるものの、教壇に立つのは全く初めてなので、毎日が期待と不安でいっぱいである。2週間という短い期間ではあるが、一つでも多くのことを吸収できるように失敗をおそれず、頑張りたいと思う。

▼教育実習にあたって

八戸工業大学　斉藤　彰

教育実習に当たってですが、まずはじめに考えたのは、教員免許は、資格でも試験を受けて取得する物ではないし、又、教員になることも考えて、教育実習をすることに決めました。又、社会の勉強と言う意味で、役に立つと思います。

▼近所にいながら

岩手大学　川口　潤

近所の大学に通っていながら、なかなか立ち寄る機会がなかった母校・岩手高校は、僅かな変化を携えながらも、暖かく迎えてくれました。愛着のわく校舎で親しみ深い先生方から再びご指導いただける喜びを感じつつ、2週間頑張りたい。

▼驚きの連続

同志社大学　東根直樹

今回の教育実習、驚きの連続です。その中でもっとも大きかったのが、自分の恩師から先生と呼ばれたこと。うれしいような恐ろしいような…。

授業について言えば、一人でも多くの人に「古文って面白い」と感じていただければ本望であります。

▼「教育実習」とは

東北工業大学　阿邊克彦

「教育実習」とは、誰もが簡単に体験することが出来ない、大変貴重な時間です。この時間は、私の想像以上に難しく、大変なところでした。同時に、「やりがい」と言う物を感じさせるところでもありました。教育実習を行って良かったと思っています。

▼朝はつらい

八戸大学　吉田光晴

朝はつらい。3年間無欠席だったのが信じられない。唯一の楽しみ：通学をする女子高生。いいね。授業はつまらない。寝ちゃう。英語は好き。教育実習書類多い。めちゃ面倒。生徒と話すのが楽しい。イカソーメン。大三元。

▼卒業生なので

第一経済大学　菊池弘樹

卒業生なので、授業の雰囲気などを知っているぶん教壇に立つことに少し不安を感じていますが、精一杯努力し、この二週間が人生の無駄にならないように、又、たくさんの思い出を作れるように頑張りたいと思います。

岩手中学修学旅行

飛行機で北の大地へ

岩手中学の2、3年生十七名が六月二十七日から三十日まで三泊四日のスケジュールで修学旅行を行った。本校では初めての飛行機を利用した修学旅行となった。

第一日目、北海道への移動のため、花巻空港から、新千歳空港へ飛行機で行きました。

その後、札幌市内へ入り各班ごとで夕食をとりました。ほとんどの班が名物の札幌ラーメンを食べたようでした。

第二日目、サッポロビールの工場を見学したあと市内で自主研修となりました。周辺を散策する班や地下鉄で遠くまでいったりさまざまだったようです。

第三日目は、ルスツ高原遊園地で、ジェットコースターなどの絶叫マシーンにたくさん乗りました。その後函館へ行き函館山から夜景を見ました。

最終日は、函館港周辺を散策し、元町教会などを見学しました。以上で北海道内での研修を終え、函館駅から特急はつかりに乗って青函トンネルを通り、盛岡へ帰ってきました。

三年甲組　近藤　裕佑

編集後記

「夏休み前に発行！」ということで締切との戦いでした。暑くなってきましたね。

編集委員
金子　裕史・明通　幸太
高屋　勇太・田村　孝志
岩渕　敬志・畑中　寛之
砂子　天心